

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

未来を切り拓く創造的な思考力と社会を生き抜く人間力を身につけ、グローバルかつローカルな視点を携えた社会をリードする人材を輩出する学校をめざす。

## 1. 育てたい生徒の資質は次の4つ

- ①グローバルかつローカルな視点を携えて「世の為、人の為」に個を磨き、自己成長を習慣化できる生徒
- ②幅広い教養（リベラル・アーツ）を身につけ、思考力・判断力・表現力・行動力を備えた生徒
- ③己を知り、社会を知り、世界を知り、人生を描くことが出来る生徒
- ④自他を認め、まごころと思いやりを持って、人と繋がり、地域・社会と繋がり、世界と繋がる、心身ともに健全で規律ある生徒

## 2. 教職員は、「教学相長」の創立時精神を踏まえ、「チーム布施高」として、その資質・能力の向上を図り、教育内容の充実と環境整備につとめる。

## 2 中期的目標

## 1. 確かな学力の育成

## (1) 質の高い授業力の向上（4ツール：授業、試験、課題、補講習を磨く）

- ア プロセスアプローチの継続。各学年の教科毎に Input と Output を定義し、投入する資源、陣容、運用方法（手順・技法）、評価指標（監視測定項目と目標値）を明確にする。年度毎にプロセススタート図を作成する。
- イ アンケートの活用、公開授業・研究授業を推進し、学校教育自己診断の「学力のつく授業が多い」、「教え方を工夫している先生が多い」の項目で、肯定的回答を毎年平均5%引き上げ平成30年度は80%にする。（H27年度は65%）
- ウ ICTを授業に積極活用することで、わかる授業、興味を引く授業を展開する。

## (2) 自学自習への仕掛け

- エ 家庭学習課題の充実、定期テスト・朝の小テスト・全国模試の内容充実、新入生対象学習合宿の充実、補習・講習の充実
- オ 校内自習環境の整備推進
- カ PTA活動での保護者への働きかけ
- キ スマホ使用対策、家庭学習定着週間の設定等で、4月、11月の家庭学習時間調査で各学年毎年各15分ずつ引き上げる。
- ク 教育産業と連携した自学自習の充実

## 2. 高い志を持ち進路実現をするためのキャリア教育

## (1) 進路保障

- ア 普通科専門コースを発展させ、将来生徒たちがなりたい自分を実現する選択の幅を広げる。（H27年アドバンスコース120名をH30年160名）
- イ H30年度卒国公立合格者25人、関関同立現役合格者実人数80人以上をめざす。（H27年度卒 現役実人数：国公立7名、関関同立のべ158名）

## (2) 系統的なキャリア教育による志や目的意識の醸成

- ウ FROM NOW（総合的な学習の時間）やLHR・学校行事の見直しと充実。

## 3. 健全な心身の育成

## (1) 自己を厳しく律する力と自尊心の育成

- ア 挨拶指導・遅刻指導の充実により、毎年度総遅刻件数2000以下を維持する。H27年度年度総遅刻件数2468件。
- イ 時間マネジメントを重視した自治会行事の充実、1・2年生、部活動の加入率H30年度85%以上の実現（H27年5月時点80%）
- ウ 教育相談委員会の活性化、個別生徒支援の充実を図り、学校教育自己診断における「学校は悩みや相談に親身になって応じてくれる」の肯定的回答H30年度75%以上を達成する。（H27年生徒63%、保護者63%）

## 4. グローバルかつローカルな資質の育成

## (1) 国際理解教育（グローバル資質の育成）の推進

- ア 国際理解教育の推進 授業での国際理解教育推進。海外語学研修、台湾訪日高校生交流、留学生受け入れ。学校教育自己診断の「国際理解教育に力を入れている」の肯定的回答を毎年5%ずつ引き上げH30年度生徒と保護者平均で70%以上の実現（H27年度生徒・保護者56%）

## (2) 地域連携強化による地域に大切にされる学校づくり（ローカル資質の育成）の推進

- イ 保護者、中学生徒、中学校教員への学校説明会の充実。ワークショップ形式の保護者と教職員の意見交換会の継続・充実に努める。
- ウ 近畿大学をはじめ他大学との連携による出前講義・体験講義の充実を図る。また、司馬遼太郎記念館との連携の充実を図り、志学に位置付けた「司馬遼太郎学習プログラム」「菜の花忌運動」「街並み会議」を展開する。

## エ 防災教育・訓練の充実

## 5. 機能的な組織運営

## (1) 情報化の推進と業務効率UP

## (2) 運営委員等のミドルリーダーの育成

## (3) 若手教員の育成

## (4) 広報活動の充実

## (5) 新しい学力観に基づく高大接続改革への対応

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]   | 学校協議会からの意見   |
|--|--|
| <p><b>【総論】</b><br/>「学校に来るのが楽しい」と答えている生徒が 83.2%を示している。また、「本学に入学して人間的に成長したと思う」と答えている生徒が、1年 64.8%、2年 69.0%、3年 80.3%と増加している。このことより、人格の形成や自立した人間の養成という学校の基本的な機能を、本校は果たしていると言ってよい</p> <p><b>【学習活動】</b><br/>「学力がつく授業が多い」では、全体で 65.7%を示しており、概ね評価してよい。だが、進路実現に向けた学力養成という面では、まだまだ課題を残している。日々の授業と進路実現との関係性をより実感できるような授業の取り組みが求められる。</p> <p><b>【進路指導】</b><br/>「本校のこれまでの進路実績に満足している」という肯定感は、生徒 71.5%、保護者 68.7%であり、概ね評価されていると考えてよい。今後は、さらに進学実績を伸ばすことで満足度を高めていく事が求められる。課題となるのは、学力生活実態調査結果や模擬試験の活用についての生徒の肯定感が 55.5%と肯定感の平均値を下回っている。今後は、学力生活実態調査・模試の結果を活用し、個々の生徒の学習状況を「見える化」する中で、より適切な指導に結び付けたい。</p> <p><b>【コース設定】</b><br/>学校改革の大きな一つであったアドバンスとスタンダードのコース設定については、生徒の肯定感が 69.8%、保護者の肯定感が 73.7%と概ね評価されていると言える。1年生では生徒が 75.5%、保護者が 77.9%と肯定感が高く定着傾向にある。</p> | <p>第1回協議会：平成 28 年 7 月 1 日（金）<br/>事務局より平成 27 年度の進路状況、平成 28 年度の経営方針とその進捗状況について、報告を行った。<br/>委員からは、進路実績については新たなコース制の設定についての成果である点が確認された。今後、前校長の 3 年間の大胆な改革についての総括の必要性を学校から提起し、総括に必要性について同意を得た。</p> <p>第2回協議会：平成 28 年 11 月 11 日（金）<br/>事務局より、学校経営に関する進捗状況を報告。前校長の 3 年間の総括を行った内容を「校長通信」として報告。</p> <p>第3回協議会：平成 29 年 2 月 3 日（金）<br/>学校教育自己診断の結果をもとに、平成 28 年度の学校経営の到達段階を報告、合わせて平成 29 年度の経営方針を報告。<br/>1年を通して協議員から提言を受けたのは、文科省が進める思考力・表現力・判断力の涵養という新しい学力観への対応への取り組みの促進、及び授業力の向上への取組、読解力の育成への取組、地域連携及び地域の人材活用の観点からの貴重な意見を賜った。</p> |

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標                      | 今年度の重点目標   | 具体的な取組計画・内容  | 評価指標  | 自己評価  |
|----------------------------|--|--|---|---|
| 1. 確かな学力の育成                | <p>(1) 授業力向上<br/>ア、プロセスアプローチの継続</p> <p>イ、アンケートの活用</p> <p>ウ、積極的な ICT 活用授業</p> <p>(2) 自学自習への仕掛け<br/>エ、オ、カ、キ、ク<br/>授業以外の学習時間確保と工夫</p> | <p>ア、各学年の教科毎に Input と Output を定義、投入する資源、陣容、運用方法、評価指標の明確化。</p> <p>イ、アンケートの活用・公開授業・研究授業の推進及び研究協議の実施。</p> <p>ウ、プロジェクター、タブレット型 PC を活用した授業の実施で、生徒の興味や関心を引くことや考える・まとめる・発表する時間の創造。</p> <p>エ、オ、カ、キ、ク<br/>家庭学習課題の充実・学習合宿の充実・年間補講計画と内容の充実・朝の小テスト継続・8時間耐久勉強会継続・全国模試の受験（3回/年以上）・学力生活実態調査（2回/年）・教育産業の活用</p> | <p>ア、学校教育自己診断アンケート「学力の付く授業が多い」「教え方を工夫している先生が多い」の生徒肯定的回答の 5%増（H27 年 66%）</p> <p>イ、全教員が 3 回以上の授業見学を実施</p> <p>ウ、ICT を活用した教員 50 名以上、学校教育自己診断「ICT 機器が各教科で活用されている」肯定回答が 50%以上（H27 年 45%）</p> <p>エ、オ、カ、キ、ク<br/>4 月と 11 月に家庭での学習時間を調査、1・2 は平日 60 分以上、3 年は 120 分以上</p> | <p>ア、「学力が付く授業が多い」が 65.7%で、前年の 65%とほぼ同じ。「教え方」については 62.3%で、前年度の 68%より減少している。今年度は、授業アンケートにより生徒の声を反映させるために自由記述を充実させた。この取り組みを今後も続けていき、生徒の満足をあげたい（△）</p> <p>イ、12 月段階で 3 回以上見学をした教師は、38%。1 回程度の見学と多数見学している教師と 2 極化が起こっている。（△）</p> <p>ウ、ICT を活用している教師は、37 名で 50 名には至っていない。学校教育自己診断の「視聴覚教材やコンピュータを使う機会が多い。」の肯定感が 44.9%と前年度並みである。（△）</p> <p>エ、オ、カ、キ、ク<br/>2 年生は 4 月 39 分、9 月 40 分。1 年生は 4 月 62 分から 43 分へいずれも平日 60 分の学習時間の確保には至っていない。3 年生の調査は実施していない。（△）</p> |
| 2. 高い志を持ち、進路実現をするためのキャリア教育 | <p>(1) 進路保障<br/>ア、イ、<br/>専門コースの内容充実と発展</p> <p>(2) 系統的なキャリア教育<br/>ウ、From Now（総合的な学習の時間）の活用</p>                                      | <p>ア、イ、<br/>新 3 年生文系アドバンス選択科目の見直し、理系アドバンス選択科目見直し、生徒の夢実現</p> <p>ウ、From Now（総合的な学習の時間）・LHR の内容見直し及び有効活用。</p>   | <p>ア、イ<br/>アドバンスコース中心に国公立 16 名、難関私立 75 名。新 2 年生が 3 年生春の学力実態調査で 2 年春レベルを維持</p> <p>ウ、From Now・LHR を見直し、学校教育自己診断「HR や総合的な学習の時間などで将来の進路や生き方について考える機会がある」の項目 75%以上（H27 年度 71%）<br/>1・2 年生難関大学オープンキャンパス参加</p>   | <p>ア、イ<br/>国公立現役合格者 10 名（神戸、大阪府大、神戸市立外大、大阪府立大、大阪市大、兵庫県立大、奈良県立医科大、奈良教育大）、関関同立合格者 77 名（3 月 31 日現在）（○）</p> <p>ウ、「HR や総合的な学習の時間などで将来の進路や生き方について考える機会がある」の項目の肯定感が 77%で目標を達成した（◎）<br/>1 年生学習合宿で同志社大学、2 年生大学体験で近畿大学に全員参加（○）</p>  |

## 府立布施高等学校

|                      |  |  |   |   |
|----------------------|--|--|---|---|
| 3. 健全な心身の育成          | <p>(1) 自己を厳しく律する力と自尊心の育成<br/>ア、挨拶指導、遅刻指導の充実<br/>イ、時間マネジメントを重視した自治会活動、クラブ活動<br/>ウ、教育相談委員会の活性化と個別生徒支援の充実</p>   | <p>ア、朝の立ち番、登校指導週間の実施、遅刻者の家庭への即日連絡実施。<br/>イ、時間マネジメント重視の自治会活動の充実、クラブ加入率の促進。アルバイト原則禁止徹底。<br/>ウ、教育相談委員会の充実と個別相談・支援の充実（特別支援委員会）</p>   | <p>ア、年間総遅刻数 2000 以下（H27 年 2468 件）<br/>イ、1・2 年生春の部加入率 83% 以上（H27 年 76.1%）<br/>ウ、学校教育自己診断「学校は悩みや相談に親身になって応じてくれる」70%（H27 年度 63%）</p>   | <p>ア、遅刻数が 2774 を超え、達成できなかった（△）<br/>イ、部活動加入率は 73%（H27 は 76.1%）（△）<br/>ウ、「学校は悩みや相談に親身になって応じてくれる」の生徒の肯定感が 59.5% で前年度より低下。より生徒に密着した指導が求められる。（△）</p>   |
| 4. グローバルかつローカルな資質の育成 | <p>(1) 国際理解教育（グローバル資質の育成）の推進<br/>ア 国際理解教育の推進<br/><br/>(2) 地域に大切にされる学校づくり（ローカル資質の育成）の推進<br/>イ、学校説明会の充実<br/>ウ、近大連携・司馬遼記念館との連携充実<br/>エ 防災教育・訓練の充実</p> | <p>ア、国際交流のさらなる推進、国際理解教育の推進。留学生の受入れ、アジア諸国からの訪日団の受け入れ推進<br/><br/>イ、有効的な学校説明会の実施と充実。<br/>ウ、近大体験やその他の大学見学や体験入学の実施。司馬遼太郎学習プログラムの内容検討・充実<br/>エ、防災訓練の実施・校内安全点検の実施地域の防災計画との連携</p>                              | <p>ア、From Now の見直し、自己の確立とコミュニケーション能力、さらに異文化と共生できる資質や能力を育成。学校教育自己診断「国際理解教育に力を入れている」肯定的回答生徒・保護者 65% 以上（H27 年度生徒・保護者 56%）<br/>イ、学校説明会参加者 1500 名以上（年 3 回合計）<br/>ウ、司馬遼太郎学習プログラム 1 年生全員（小説等の読書冊数 3 冊/年）<br/>菜の花忌運動 1・2 年生参加継続<br/>エ、不安全事象ゼロ<br/>学校教育自己診断「災害時の対応について、生徒や保護者に行動マニュアルが知らされている」55% 以上。（H27 年 51%）</p> | <p>ア、「国際理解教育に力を入れている」の生徒の肯定感が 68.2%、保護者 72.7% で目標を大きく上回る。2 年生の台湾修学旅行、kakehashi project への参加が大きな要因である。（◎）<br/>イ、学校説明会参加者は 1800 名を超えた。（◎）<br/>ウ、小説等の読書数のデータはないが、司馬遼太郎記念館の訪問、菜の花忌への参加は例年通り実施した。（○）<br/>エ、「本校で、地震や火災の際の対応は知らされている」で生徒の肯定感が 60.8% で目標を大きく上回る。（◎）</p> |
| 5. 機能的な組織運営          | <p>(1) 情報化の推進と業務効率 Up<br/>(2) 運営委員等のミドルリーダーの育成<br/>(3) 若手教員の育成<br/>(4) 広報活動の充実<br/>(5) 高大接続改革への対応</p>  | <p>(1) 内部データの電子化、情報共有化、Mail の活用、職員会議等のペーパーレス化の継続推進<br/>(2) 運営委員会や各種係への若手積極的登用。<br/>(3) 指導教員・教科指導員等による若手教員育成のための OJT 実施。<br/>(4) 学校の取組みの積極的な広報と中学校、塾への積極的な広報活動の実施。<br/>(5) 高大接続改革の研究および新学力観に基づく授業開発</p> | <p>(1) ペーパーレス職員会議の推進強化<br/>(2) 若手教員に一人一役、責任ある業務の分担<br/>(3) 新任教員・二年目教員に OJT と校内研修実践（年 5 回）<br/>(4) 入試倍率、前年度志願者数 1.38 倍・495 名以上（H28 年度）<br/>(5) 各種研究会への教職員の参加（複数）及び研究授業の実施（各教科 1 回）</p>   | <p>(1) 職員会議でペーパーレス化を推進するが、情報の共有化については紙ベースも必要である。（○）<br/>(2) 若手教員によるパンフレット作成、kakehashi project 引率を実施（○）<br/>(3) 校内研修を、指導教諭を中心に年数回実施し、若手の資質向上を行った（○）<br/>(4) 前年度を超える希望者で志願者が推移している。（○）<br/>(5) 教育産業の研修へ 6 名の教員派遣、校内研究授業を実施（○）</p>                                 |